【応募用紙】

1 応募者概要

団体名	（ふりがな: よこはましりつみなみほんじゅくしょうがっこう ） 横浜市立南本宿小学校		
代表者の役職・氏名	（ふりがな:いしかわひでお ） （役職） （氏名） 校長 石川英雄	会員数	（平成 30 年 11 月現在） 児童:404 名
ホームページアドレス	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamihonjuku/	活動開始年月	昭和 ・ 平成 27 年 4 月 （水田活動は 30 年以上前から）
活動範囲（複数選択可）	1 学校内 2 学校外（南本宿公園、こども自然公園、帷子川、愛川、三浦、日光）		
活動分野（複数選択可）	1 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 4 3R 5 環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他（ ）		
活動の目的やねらい	学校内外の行事等に、環境を重要な視点として各学年が主体的に取り組むことで、子どもたちがSDGsの視点をつかみ、自ら環境へ働きかけられるようにする。		
過去に受けた表彰および受賞年度	（例）横浜□□賞（平成○年度）		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳 細 内 容
平成27年度	南本宿公園清掃（３年）	58 名	地域の自治会の方と協力して公園のゴミ拾いを行い、自分たちの周囲の環境の改善に取り組んだ。
	教育水田活動および南本ふれあいフェスティバル （全校）	380 名	こども自然公園の水田を借りて水田活動を行った。塩水選やもみまき、田植えや草取り、田網張りやかかしづくり、稲刈りや脱穀などの多くの工程に学年で分担して取り組んだ。そこで収穫された米を「フェスティバル」の中でもちつきをするとともに、水田委員会が中心となって年間の活動のまとめを行った。
平成28年度	ビオトープアドバイザー派遣事業（４年）	29 名	横浜市環境創造局の派遣事業を受けて、校庭の湧水でビオトープを作り、生物の多様性に触れた。また、校内の動植物について調べ、学年に紹介した。
	愛川宿泊体験学習（４年）	58 名	間伐体験を通して、森林に親しむとともにその働きを知り、陸や海の豊かさを守る大切さを実感した。
	かながわ環境教室（４年）	58 名	こども自然公園の生物調べを行い、その豊かさや多様性を知るとともに、それを模範として学校内の自然をよりよくしていこうとする活動に取り組んだ。
	星空観察会（４年）	58 名	冬の星空や景色を観察することで、光害も視点に含めた環境の捉え方を学んだ。
	南本宿公園清掃（３年）	68 名	継続的な活動として取り組んだ。

	教育水田活動および南本ふれあいフェスティバル　（全校）	391 名	前年度の内容を継続して行った。
平成29年度	ビオトープアドバイザー派遣事業（５年）	28 名	前年度の活動を引き継ぐ形で、ビオトープの生物をさらに詳しく調べ、デジタルパンフレットの形で発信した。
	愛川宿泊体験学習（４年）	68 名	前年度の活動を生かし、焼き板でのクラフトを行った。
	三浦宿泊体験学習（５年）	58 名	小網代の干潟での生物観察を行い、流域単位で自然を捉えることの意義を理解するとともに、磯での生物採取を通してその多様性を実感した。また、本物の農場での収穫体験では、土壌を豊かにする大切さを学んだ。
	かながわ環境出前教室（５年）	58 名	前年度の学習を発展させ、こども自然公園の大池と流域を共にする帷子川の生き物調べを行った。
	南本帷子川水族館（全校）	延べ約250 名	帷子川の自然の豊かさをさらに詳しく知るために、外部企業を招いて「帷子川ミニ水族館」を開き、クイズを通して環境への関心を高めた。
	タケノコ掘り（１年）	75 名	学校の前にある第三公園にあるタケノコを掘り、自然の豊かさを実感した。
	花壇デザインコンテスト（環境委）	20 名	第三公園の花壇をデザインして実際に花を植える活動を行い、地域の環境美化に取り組んだ。
	星空観察会（４年）	68 名	前年度の内容を継続して行った。
	南本宿公園清掃（３年）	65 名	継続的な活動として取り組んだ。
	教育水田活動および南本ふれあいフェスティバル　（全校）	395 名	前年度の活動に加え、教育水田の活動と環境の関係性について６年生が調べたことを発表することで、全学年がその意義への理解を深めた。
平成30年度	ビオトープアドバイザー派遣事業（６年）	27 名	これまでの活動をさらに広げ、周囲に芝を生やすことでさらに多様な生物が生息できるようにした。
	大池宿泊体験学習（４年）	65 名	宿泊地を前年度までの愛川からこども自然公園に変更し、身近な自然の豊かさを味わうとともに、間伐した木材を加工することでその価値を実感した。また、近隣の牧場と連携し、乳しぼり体験を行った。
	三浦宿泊体験学習（５年）	68 名	前年度の活動を引き継ぎながら、その他の場所での生物採取なども行った。
	日光修学旅行（６年）	58 名	活動の一つとして行った、足尾銅山についての学習会の中で、銅山の意義をＳＤＧｓのいくつかの視点から判断する活動を通して、社会を持続可能なものとしていくためには常に多様な観点からのバランスを考える必要があることを理解した。
	かながわ環境出前教室（５年）	68 名	前年度に引き続き、帷子川の生物について調べた。
	横浜市環境教育出前講座（３年）	68 名	子どもたちの自然への関心の高まりを受け、こども自然公園の生き物に触れる学年を早めることになった。

	ゲンジホタル観察会（全校）	約 150 名	こども自然公園に生息するゲンジボタルの観察会に親子で参加することを通して、保護者の自然への関心が高まるとともに、ＳＤＧｓの概念が広まった。
	タケノコ掘り （１年）	71 名	昨年度の活動を引き続いて行った。
	星空観察会（6年）（4年→2 月実施予定）	24 名（6年）	これまでの活動の内容と学年を広げて行った。
	南本宿公園清掃（３年・６年）	68 名･57 名	継続的な活動として取り組むとともに、朝会の場で６年生が公園のゴミ拾いを全校へ呼びかけた。
	教育水田活動および南本ふれあいフェスティバル （全校）	404 名	これまでの活動を引き継ぐとともに、さらにＳＤＧｓの視点と結び付けて教育水田活動を振り返った。

３ 地域との関わり

	活動･取組等の名称	詳 細 内 容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	ビオトープアドバイザー派遣事業	校内を大きなビオトープとして捉え、そこに生息する生物を調べて看板に表して校内の他学年に紹介し、その豊かさを実感できるようにした。
	南本ふれあいフェスティバル	教育水田の活動と環境の関係性について調べたことを発表することで、全学年がその意義への理解を深めた。
	南本宿公園清掃	公園の清掃を通して、落ちているゴミの中には自分たちが捨ててしまったものもあるのではないかと気付き、朝会で放課後の自主的なゴミ拾いを呼びかけた。
	星空観察会	星空観察会に親子で参加し、星の見えやすさと環境の問題についてともに考えた。
	ゲンジボタル観察会	こども自然公園に生息するゲンジボタルを親子で観察し、自然への関心を高めるとともに、ＳＤＧｓへの理解を深めた。
自治会･町内会との関わり	南本宿公園清掃	南本宿公園の清掃を担当する南本宿自治会の方とともに、公園のゴミ拾いを行った。
	ビオトープアドバイザー派遣	ビオトープを含めた校内のよさを紹介するデジタルパンフレットを作り、地域の自治会の方を招いて発表会を行った。
	南本ふれあいフェスティバル	教育水田活動を支える地域の方々を招き、感謝の気持ちを伝えるとともに、その中で学んだ意義を発表した。
学外団体との関わり	愛川宿泊体験学習	「神奈川トラストみどり財団」に依頼し、間伐体験を行った。
	日光修学旅行	「足尾に緑を育てる会」と連携し、足尾銅山への植林を行った。
	かながわ環境教室 横浜市環境教育出前講座 大池宿泊体験学習	「こども自然公園どろんこクラブ」および「北部公園緑地事務所」と協力し、こども自然公園公園の生物を調査するとともに、その一部を保護したり、公園のよさを生かして学校の環境をよりよくしていく活動を行ったりした。また、宿泊体験学習では間伐体験を行った。
	星空観察会	「はまぎんこども宇宙科学館」の出前授業を活用した。
	ゲンジボタル観察会	「よこはま かわを考える会」と連携し、ホタルの説明などを行った。
企業等との関わり	南本帷子川水族館	「ココペリプラス」と連携を図り、帷子川の生物を集めたミニ水族館の学習を通して、学校がその流域として含まれる河川への理解を深めた。
	大池宿泊体験学習	「相澤良牧場」と協力し、乳しぼり体験を行った。
	タケノコ掘り･花壇デザインコンテスト	第三公園の管理を受け持つ「横浜植木」と協力して活動を進めた。

行政との関わり	ビオトープアドバイザー派遣事業	横浜市環境創造局みどりアップ推進課
その他、環境以外の分野との関わり	日光修学旅行 南本ふれあいフェスティバル	足尾銅山の歴史を調べ、銅山が地域に及ぼした影響を判断する際に、SDGsの中にある「経済」や「健康」、「まちづくり」などの視点の大切さについて学んだ。 教育水田の価値をSDGsにあるその他の視点から改めて振り返った。

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※ 立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

主体としては学校が行う教育活動であるが、子どもたちに学習を捉える視点として「環境」を提示することで、子どもたちは少しずつ自分たちが取り組む行事等を一貫した流れの中で考えることができるようになった。本校を含めた地域の自然は、子どもたちにその豊かさを実感させるに十分なものであり、さらにはその素晴らしさを発信していきたいという思いを促した。その結果、さまざまな学年が自分たちの調べたことや体験したことを他学年に向けて発表し始め、学校全体の環境への意識が高まった。その対象は地域の方々にも広がり、発表を通して交流が深まり、活動がさらに発展していくという好循環も見られるようになってきている。

具体例としては、南本小の自然環境の豊かさをデジタル機器でアピールする活動に地域の自治会の方をお招きしたところ、活動の趣旨に賛同いただき、他の学年が校内の木に樹木札を取り付ける活動を行った際にもお手伝いに来て下さった。さらに、翌年にはその自治会が管理を行う公園の清掃を子どもたちからの発案で行うという流れにつながった。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

※自己評価やこれまでに改善したこと等を具体的に記入してください。

※中学生以下の団体は、児童・生徒が主体性を持って活動している取組（発案含む）についても具体的に記入してください。

前述の通り、さまざまな行事等を「環境」という一貫した視点でとらえることを通して、子どもたちの主体的で継続的な取組を促すことができている。

まだ授業での活動の枠を超えない部分も多いが、南本ふれあいフェスティバルにおける教育水田の活動の意義の発表や、朝会でのゴミ拾いの呼びかけ、看板やデジタルパンフレットでの発信は、子どもたちの主体性が顕著に表れたものといえる。

生物多様性に関する取組 （生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（１ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

多くの活動が生物多様性に関係するが、特にビオトープの活動（校庭に生息するサワガニの保護）やこども自然公園での生物調査（絶滅危惧種のホトケドジョウの発見）、三浦宿泊体験学習での干潟観察やゲンジボタル観察会などは、学びをより深め、自分たちの行動への意欲を高める機会となった。

６ 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

基本的には次年度以降も「学校内外の行事等に、環境を重要な視点として各学年が主体的に取り組むことで、子どもたちがSDGsの視点をつかみ、自ら環境へ働きかけられるようにする」というねらいの下に活動を進めるが、より自主的な活動を促すために、行事の企画や運営の部分で子どもたちが関わる範囲をさらに広げるという方法が考えられる。

７ 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないＰＲポイントについて具体的に記入してください。

子どもたちが楽しみながら活動に取り組み、環境への学びを深めていると同時に、自分たちの住む地域を「ふるさと」として捉え、よりよくしていきたいという気持ちをもてるようになってきている点。

【詳細・補足資料】

1、ビオトープアドバイザー派遣事業

◇平成28年度の4年生を中心に始まった活動。校庭の隅の湧水を利用し、ビオトープを作る計画を立てて取り組んだ。生い茂る草を取り除いて水をためやすくする作業や、生息する生き物の調査などを子どもたち自身が行った。その中でサワガニやセスジスズメ、ツチイナゴやカナヘビなど、多くの生き物が見つかった。

活動の様子

整備前のビオトープ　→　生い茂る草

草取りをする子どもたち　→　水が無事たまるように！

見つけた生き物

カナヘビ

セスジスズメの幼虫

ツチイナゴ

カナヘビ

2、こども自然公園での生物調査

◇上記の活動に合わせ、近くの「こども自然公園」の生き物を調べ、保護する活動に取り組んだ。冬になると水量が落ちる水田の水路に生息する生き物を採集した結果、絶滅危惧種のホトケドジョウなどの保護に成功した。

活動の様子

水路の生き物調べ

どろんこクラブの方のお話

保護した生き物

ホトケドジョウ（絶滅危惧種）

ヘビトンボの幼虫

メダカやモツゴ

3、三浦宿泊体験学習

◇水源から海に至るまでの流域の自然がまるごと保存された小網代を歩き、河口の干潟で「カニダンス」の観察を行い、磯の生き物を調べた。また、三浦で農業を営む方の農園で種々の作物の収穫を体験するとともに、松輪漁港を見学した。その中で子どもたちは、陸や海の豊かさをはじめとしたSDGsにつながる視点を獲得していった。

活動の様子

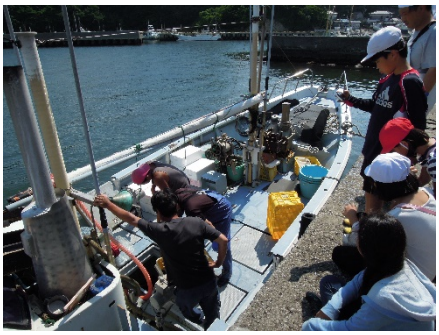
小網代の散策

干潟の観察

磯の生き物調べ

収穫体験

収穫したジャガイモ



漁港の見学

出会った生き物

ベンケイガニ

捕まえた海の生き物

チゴガニ

4、教育水田活動

◇本校で30年以上続く本校の教育活動では、塩水選に始まり、もみまきや田植え、草取りや田網張り、稲刈りや脱穀、精米からもちつきに至るまでを、昔ながらの方法で全学年が分担して行っている。その中で子どもたちは、土の豊かさを守るには、海にまで広がる流域全体の環境を考えていく必要があることに気付きました。

活動の様子

代かき

田植え

稲刈り